

社会に開かれた教育課程の実現に向けた準備を進めましょう

新学習指導要領の理念の柱に「社会に開かれた教育課程」の実現があります。以下のQ & Aを参考に、「社会に開かれた教育課程」編成の基本的な方針を共有し、教育課程の編成・実施に努めましょう。

Q：なぜ「社会に開かれた教育課程」が必要なのですか？

A：子供たちは、今、激しく変化し続ける社会に生きています。子供たちが大人になる頃にどのような世の中になっているのかを予測することさえ困難な状況です。そのような**未来を担っていくためにどのような力を子供たちに育てていけばよいかを考え、地域と目標を共有し、連携・協働しながら実現を図っていく**ことが求められます。そのために必要なのが「社会に開かれた教育課程」です。

Q：「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、先ず何から始めたらよいでしょうか？

A：「社会に開かれた教育課程」を実現するためには、育てたい資質・能力を明確化するという視点が大切です。先ずは、学校教育目標を具現化した児童生徒の姿や、その姿を実現するために育てたい資質・能力について、**児童生徒の実態や保護者・地域の願いを踏まえて見つめ直す**ところから始めましょう。

育てたい資質・能力を見つめ直す際のポイント



①資質・能力の3つの柱や「見方・考え方」を重視

新学習指導要領で示された各教科で育成すべき資質・能力の3つの柱※や、それぞれの教科特有の「見方・考え方」を踏まえて、資質・能力を見つめ直してみましょう。

②子供主体の視点を重視

「(教師が)何を教えるか」だけでなく、「(子供が)何ができるようになるか」という子供主体の視点で資質・能力を見つめ直してみましょう。

※資質・能力の3つの柱

- 1 知識・技能
- 2 思考力・判断力・表現力等
- 3 学びに向かう力・人間性等

Q：育てたい資質・能力の育成に向けて、どのように各教科の年間計画や単元計画を見直したらよいですか？

A：今教えている教育内容について、単元や教科等を学年や校種を越えた学びの全体像の中でとらえ直し整理するなど、**教科横断的な視点**で見直しましょう。また、**計画を可視化し、これを職員全体で共有**するとともに、家庭・地域にも発信しましょう。

計画等の見直し・実施のポイント



①活動を教科横断的な視点で再編成

各教科で、育てたい資質・能力を育成することができる活動を洗い出したり、新たに設定できる活動を考えたりしてみましょう。そして、これらの活動を、教科横断的な視点で配列し結びつけてみましょう。

②学校の機能を社会に開き家庭・地域とつなげる

教育内容を家庭・地域に知ってもらうことが、学校の機能を社会に開く第一歩です。育てたい資質・能力をあらかじめwebや通信等で発信し共有することで、学校と家庭・地域の人々が、資質・能力の育成という共通の目的でつながります。これにより、教育活動に関わる家庭・地域の人々が、単に「学校が求める教育資源」としてではなく、「学校経営に参画するよきパートナー」として、学校と一体となって教育活動を担う存在となります。



【新年度がスタートする前にしておきたい準備】

育てたい資質・能力を育成するために、自分の担当する学年や教科でどのような指導を進めたらよいのか、子供の深い学びを実現するための「見方・考え方」を生かした指導はどのように実現すればよいのか、そのためにどのように社会とつながりながらこれを実現していくのか等について、**新学習指導要領**や**新学習指導要領の解説**をもう一度読み直し、必要な情報を整理しておきましょう。

